

## 2022 年度日本海洋学会通常総会議事録

日時：2022 年 5 月 23 日（月）～29 日（日）

2022 年度の通常総会は、インターネットを通じた書面開催とし、審議事項の採決はインターネット上の投票により行った。会長挨拶と審議事項の採決の結果、頂いたご意見の一部と役員・幹事会からの回答は以下のとおり。

### 1. 会長挨拶

2022 年度の通常総会開催にあたり会長の神田からご挨拶申し上げます。

日頃よりの会員の皆様の学会運営へのご協力を厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症については、依然として克服という状況には至っておりませんが、様々な面での出口戦略が模索されるようになってきております。今年度の春季大会（JpGU）もハイブリッド開催に踏み出しておりますが、日本海洋学会の通常総会については昨年度と同様に、ウェブ上での資料確認と賛否投票という形式での開催とさせていただかざるを得ませんでした。通常総会は、前年度の事業報告・決算と今年度の事業計画・予算などを審議いただく年に 1 回の重要な機会です。また今回の総会では、日本海洋学会にとって 7 番目の表彰となる日本海洋学会吉田賞の新設も審議いただきます。多くの会員の皆様に学会の状況を確認いただき、審議へのご参加をお願いする次第です。

昨年度の総会以来の喜ばしいお知らせとして、昨年秋（受賞者公表 9 月 30 日、メダル・賞状の授与 12 月 1 日）に日比谷紀之の会員が海洋立国推進功労者表彰を受けられました会員の皆様と共にお祝いしたいと思います。一方、本年 4 月 11 日に Timothy R. Parsons 名誉会員が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

昨年 2021 年は日本海洋学会創立 80 周年でした。お手元に JOS ニュースレター特別号の創立 80 周年記念誌と岩本編集委員長のデザインによるささやかな記念品が届いたかと思えます。また昨年度の秋季大会は、東京大学大気海洋研究所の会員の皆様のお世話で創立 80 周年記念大会としてオンライン開催いただき、初日に 80 周年記念シンポジウムを開催させていただきました。さらに、昨年 11 月には「研究に関する将来構想ワーキンググループ」により取りまとめたいただいた研究の将来構想果が「海の研究」第 30 巻 5 号に 7 篇の総説論文として掲載されました。秋季大会ならびに一連の記念事業にご尽力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

秋季大会に続き、今年 3 月の海洋生物シンポジウムも、一昨年度に引き続きオンラインで開催いただきました。海洋生物学研究会の皆様に感謝申し上げます。今年度の秋季大会は、愛知県、三重県の会員のお世話で名古屋大学において開催予定ですが、少なくとも一部は対面で開催できるようご準備をいただいております。大会実行委員会の皆様のご尽力にお礼申し上げますと共に、多くの皆様と会場でお目にかかれる状況となるよう心より祈っております。

ます。

感染症につづく戦禍など、望ましくない出来事が続く状況のなかで、学会を巡る状況も困難さを増しているように思いますが、長年の懸案である法人化をはじめ、次の10年を見据えた努力を続けてまいりたいと思います。会員の皆様におかれましては、くれぐれも健康にご留意いただきながら、早期に皆様の研究活動が正常に戻りますよう祈っております。

日本海洋学会会長 神田穰太

## 2. 審議事項

出席会員数は168名（web投票者数108、委任状数60）であり、会則第28条より2022年度通常総会は成立した。下記の投票結果の通り、審議事項7件については、承諾が得られ、会則第29条および会則第42条により承認された。

### 記

web有効票数108票

審議事項1)	日本海洋学会吉田賞の新設について	承諾106	不承諾2
審議事項2)	会則・細則の改定について	承諾107	不承諾1
審議事項3)	2021年度事業報告並びに決算報告について	承諾108	不承諾0
審議事項4)	2021年度監査報告について	承諾108	不承諾0
審議事項5)	2022年度事業計画並びに予算案について	承諾108	不承諾0
審議事項6-1)	名誉会員の推薦について（柳会員）	承諾108	不承諾0
審議事項6-2)	名誉会員の推薦について（市川会員）	承諾106	不承諾2

以上

## 3. 総会の投票で頂いたご意見の一部と役員・幹事会からの回答

### ご意見1

審議事項1)について、海洋湧昇の重要性や山形先生の思いについては理解します。しかし、これまで海洋学会の賞で特定の現象に的を絞った賞は無いと思いますし、対象の範囲もやや狭く感じます。もちろん、海洋学会として特に海洋湧昇に関する研究をフィーチャーするというのならば良い方法だとは思いますが、なぜ、この分野をフィーチャーするのか、なぜ、この分野の賞を創設するのかについては、もっとしっかりとした議論が必要だと思います。

## 回答 1

「フィーチャーする」というご意見の表現が、湧昇に関する研究を他の分野の研究よりも学会として重視するという意味で使われ、賞新設の趣旨をそのように受け取られたのだとすれば、説明の不足をお詫びいたします。湧昇について我が国において先駆的な業績が出され、その後も大気海洋相互作用などへの広がりも含め、様々な海洋研究の領域での業績につながってきたことを記念あるいはアピールするというのが「湧昇」をピックアップした主な趣旨です。学会から諸外国を含めた表彰を行って、我が国の海洋学コミュニティの活動のアピールと内外の研究者の研究交流の促進につなげるという趣旨の賞ですが、何らかの縁（ゆかり）によって分野を絞ることは、海外の他の賞との差別化という意味で必要があると認識しております。

## ご意見 2

賞新設の趣意に異論はないが、一般論として学会賞に類する賞をこれ以上増やしても学術の進歩に有意に貢献するとは考えにくく、賛成できない。もっと有益な寄附金の使い道があるのではないか。

## 回答 2

ご指摘の通り、学会からの表彰を際限なく増やすことは現実的ではありませんし、賞新設のたびに意義が逡減していく危険性をはらみます。ただ海洋学会においては、非会員も含めて国際的に表彰するための賞はなかったので、今回の吉田賞新設は海洋学の進歩への大きな貢献となるものと考えております。

以上